

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名：	中口 義次	提出日：平成23年1月9日
東南アジア研究所における職名：	* 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ <input checked="" type="radio"/> 助教・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名)：	タイ、プリンスオブソクラ大学理学部、Varaporn Uddhakul * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。( <input checked="" type="radio"/> 大学・研究機関・企業・その他 )	
派遣期間：	平成22年10月14日 ~ 平成22年11月7日 (派遣日数：25日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可)	<input checked="" type="radio"/> ①研究・実験、 <input type="radio"/> ②フィールドワーク、 <input type="radio"/> ③セミナー、 <input type="radio"/> ④インターンシップ、 <input type="radio"/> ⑤サマースクール等の講習、 <input type="radio"/> ⑥学会出席、 <input type="radio"/> ⑦単位取得等、 <input type="radio"/> ⑧その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。)	<input type="radio"/> ①人文学、 <input type="radio"/> ②社会科学、 <input type="radio"/> ③数物系科学、 <input type="radio"/> ④化学、 <input type="radio"/> ⑤工学、 <input type="radio"/> ⑥生物学、 <input type="radio"/> ⑦農学、 <input checked="" type="radio"/> ⑧医歯薬学、 <input type="radio"/> ⑨総合領域、 <input type="radio"/> ⑩複合新領域	
派遣の概要(500~700字程度)	<p>感染症の拡大には国境はない。東南アジアの国々では、人および物の移動が盛んである。これは、感染症の原因となる病原体が人および物を介して容易に拡大することを意味している。タイ南部では、マレーシアと国境を接しているため、人および物の交流が盛んである。今回の研究調査先であるタイ南部は、熱帯域に属し、雨期(10月から12月)および乾期がある。特に雨期において、この地域では、下痢症患者の発生が高いといわれている。以前にタイ南部で、魚介類の喫食により発生する腸炎ビブリオ感染症が高い割合で発生しているという事実を掴んでおり、それは世界的大流行株による大規模な発生であると報告している。今回の調査では、現在でも、腸炎ビブリオ感染症を引き起こす病原性菌株が食品、特に、魚介類中に存在しているのかを明らかにし、さらに、それらの病原性菌株の特徴を明らかにすることを目的とした。最終的には、過去のこの地域や近隣の地域で分離された菌株と比較して、東南アジアにおける病原菌のダイナミズムを描き出すことを考えている。</p>	
事業に係る研究成果(500~700字程度)	<p>プリンスオブソクラ大学理学部の Varaporn Uddhakul 准教授および研究室の学部学生、大学院生、講師の方々の協力を得て、研究調査を実施した。</p> <p>ハジャイ市は、タイ南部の主要な都市であり、マレーシアとの国境にも近い。周囲に海岸線があり、また汽水域のソクラ湖があるため、魚介類の生産や養殖が盛んで、シーフード料理も人気がある。今回は、魚介類の中でも、特に二枚貝類(過去に、この地域で、腸炎ビブリオの病原性菌株が実際に分離されている)に着目してサンプリングを実施した。サンプリングは、滞在期間中で複数回に分けて実施し、赤貝(ホイクレン)、ミドリイガイ(ホイマレンプー)、カキ(ホイナンローン)など、この地域でよく食べられている5種類で実施した。サンプルを増菌培養して、病原性菌株を検出するPCR法を実施した結果、全17サンプル中、4サンプルで陽性となった。さらに、この地域で過去に分離されている大流行菌株を標的とした免疫磁気ビーズ法を併用して、増菌培養を実施したところ、全17サンプル中で、9サンプルが陽性となった(弱い陽性も含む)。それらの4サンプルから病原性菌株の分離に成功した。引き続き、分離された病原性菌株の遺伝子型などの特徴を詳細に調べ、過去の分離菌株や近隣の地域での分離菌株と遺伝学的な比較解析を実施し、疫学的なデータを蓄積して、東南アジアで広がり流行している腸炎ビブリオ感染症の実体を把握することを、今後の課題と考えている。</p> <p>訪問した時期が雨期であり、11月2日以降、タイ南部では、過去70年間で最悪の規模の洪水の被害に見舞われた。ハジャイ市内での主要な幹線道路も水没し、タイの軍関係による救援作業や救援物資の支援などが行われていた。災害時の衛生環境の悪化に伴う感染症の大流行などを考える上で、貴重な体験であった。</p>	